

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月18日

【評価実施概要】

事業所番号	02504104		
法人名	社会福祉法人ふたば福祉会		
事業所名	せんだんの家		
所在地	福島県双葉郡双葉町長塚字谷沢町25番地1 (電話) 0240-33-5101		
評価機関名	福島県社会福祉協議会		
所在地	福島県福島市渡利七社宮111		
訪問調査日	H20.7.7	評価確定日	H20.8.25

【情報提供票より】(平成20年6月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年11月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤 人, 常勤換算	5.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(6月10日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5			要支援2		
年齢	平均 86.3 歳	最低	80 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	双葉厚生病院、佐藤歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

この事業所は、国道から東へ入った太平洋が見える所に位置し、鳥のさえずりが聞こえてくる静かな環境の中にある。
 建物の内外ともきれいに整備されており、事業所内の食事をする場所や入居者がくつろぐ場所などの共有空間が広々としている。
 また職員は、利用者が日々ゆったりと過ごすことができるように配慮しており、とても落ち着いた雰囲気の中で利用者は生活している。
 事業所としての年間目標を作成し、職員が一丸となって目標を達成するという意識を持って働いている。そのことが、自然に利用者や家族にも伝わり、信頼関係に結びついている。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で改善課題とされた「地域とのつきあい」が改善されていないので、運営推進会議の委員からも意見をいただき、どうすれば地域の方々との交流などが活発になるのか再度検討してほしい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回も自己評価を管理者をはじめ全職員で取り組みまとめた。日ごろの業務を振り返るよい機会となり、課題を共有することができた。今後は、前回のように改善課題を積み残すことのないよう、課題に関して計画的に職員全体で取り組み、着実に改善して行ってほしい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5)
	運営推進会議では、入居状況・クラブ活動・今後の行事予定などについて議題としている。しかし、会議内容が報告で終わっている面も見受けられるため、今後は意見交換や話し合いを重視した会議になるようにしてほしい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族へは、面会時や電話で利用者の様子などを報告するとともに、意見や不安なことなどを把握し、そのつど対応し運営へ活かしている。また、利用者ごとに2ヶ月に1回近況報告や写真を家族へ送付していることで、家族からは安心したとの声を聞くことが多い。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者の年齢を考慮すると、外出時に地域の方と交流する機会よりも、事業所に地域の方が訪問して頂けるような工夫ときっかけ作りに取り組んでほしい。 そのためにも、事業所で行う行事や避難訓練を職員だけで行うのではなく、地域の方々の参加や協力を得ながら行うようにしてほしい。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「優しく話を聴いて、穏やかに見守る」という理念を職員全員で話しあって作った。理念は、いつでも職員が目にするよう、職員がいつも出入りする事務所内に掲示してある。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践については、常日頃から職員間で話し合っている。利用者と接する時も理念に基づく実践となるよう、職員間で互いに気をつけ合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敬老会(9月)、鼓笛隊見学(4月)、踊りの発表会などに利用者は参加しているが、利用者の年齢を考慮し、地域の方との交流をするために無理に外出をすることは行わないようにしている。	○	外出して地域の方と交流する機会よりも、事業所に地域の方が訪問して頂けるような工夫ときっかけ作りに取り組んでほしい。そのためにも、事業所で行う行事や避難訓練を職員だけで行うのではなく、地域の方々の参加や協力を得ながら行うようにしてほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価と外部評価に関して職員へ説明し理解はされている。しかし、前回の評価結果について職員間の共通認識がされていないため、具体的な改善がされていない。	○	自己評価と外部評価結果に関して職員間で話し合い、共通認識した上で計画的に着実に改善と実践に向けて取り組んでほしい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、2ヶ月に一回定期的に開催しており、事業所の取り組みを理解してもらうように努力している。しかし、これまでは評価結果を踏まえて、改善に向けた話し合いと取り組みがされていない。</p>	○	<p>会議の開催内容の年間計画を作成するとともに家族の方々も参加できる工夫をし、今後は意見交換や話し合いを重視した会議になるようにしてほしい。また、特に地域とのつながりに関する話し合いを行ってほしい。</p>
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者ごとに2ヶ月に1回近況報告や写真を家族へ送付している。</p> <p>また、家族が来所した時はケース記録・出納帳などを確認していただきサインを貰っている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族へは、面会時や電話で利用者の様子などを報告するとともに、意見や不安なことなどを把握し、そのつど対応し運営へ活かしている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>事業所を運営する法人内での職員の異動は極力少なくし、利用者への影響がでないよう配慮している。職員異動や新規採用時は、引継ぎの期間を十分に取り、スムーズに利用者の支援ができるように配慮している。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	浜北地区グループホーム連絡協議会や認知症介護実践者研修など外部研修に参加した後、内部研修にて職員間の共通理解を行うようにしている。しかし、職員を段階的に育成するための方針と計画はないため、外部研修へ参加をする職員が、意欲の有無により偏る場合がある。	○	職員の経験年数や研修すべき課題を加味し、組織として職員を段階的に育成するための方針と年間の研修計画を作成してほしい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	浜北地区グループホーム連絡協議会で実施している研修会には毎回参加し、他事業所職員と意見交換や情報交換を行いながら質の向上に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が習字や絵を書くときには、職員は支援や見守りをしながら教えていただくように努めている。作品は、居間に飾り、作品を書いたときのことを話題にしながら利用者と職員が過ごすようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が日々の安心した生活が送れるよう日頃からこまめに声かけをし、利用者の意向を把握するように努めている。把握できない時には、家族と連絡を取り、利用者の意向を確認するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向をその都度職員が把握し、職員間で情報の共有と話し合いをした上で介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護支援専門員を中心に利用者や家族からの思いを集約し、介護計画を3ヶ月に1回は見直しをしている。「家に帰りたい。」と訴える利用者がある場合は、家族と話し合い、家族と電話で会話して利用者が安心できるようにする計画を作成するなど、家族とも連携をとり臨機応変に介護計画を見直ししている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族が希望するかかりつけ医への受診支援を行っている。家族が同行できない場合は職員が受診の支援を行い、その結果を家族に報告している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期の対応については、利用者・家族・かかりつけ医とも日頃から話しあっているが、重度化や終末期に向けた方針は記録化されていない。	○	「重度化や終末期に向けた方針」について利用者や家族・かかりつけ医を交えて話し合い、記録し方針の共有を図るよう取り組んでほしい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対して職員が働きかけをする際は、利用者の気持ちを考え、さりげなく話しかけを行っている。入浴やトイレ介助もプライバシーを損ねないような言葉かけをしながら支援している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝に起きる時・夜寝る時・日中何かしたいという時には、職員の都合でなく、その時の利用者の気持ちを最大限尊重した支援に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好きなものをメニューにするほか、嫌いなものは調理方法を工夫したり代替食で対応したりしている。また、盛り付けや下膳を職員と利用者が一緒に行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人のこれまでの生活習慣や希望に合わせ、楽しく入浴ができるように配慮している。また、毎日入浴できる職員体制にしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	ドライブ・カラオケは、月1回行事として開催している。また、木箱作り・金魚の世話等利用者の希望を大切にしたり取り組みをしている。しかし、生活歴を活かした役割という点では、利用者の持っている力を最大限引き出せていない。	○	加齢による意欲や体力の低下がある場合であっても、張り合いや喜びのある生活となるようにするため、本人の持っている力を少しでも引き出せるような支援に努めてほしい。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	利用者が買い物や散歩に行く際に職員も同行し、一人ひとりにあわせた支援をしている。また、気分転換に外食を取り入れた誕生会を行い、外出の機会にするように工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は全て鍵はかけていない。日中は自由に外に出ることができるようになっている。利用者が外出しそうな時は、職員はさりげなく付き添うようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所と併設している特別養護老人ホームと共同で年2回は避難訓練を実施しているが、グループホーム独自の避難訓練は実施されていない。	○	年2回以上は事業所独自に利用者も参加した避難訓練を実施するとともに、夜間を想定した避難訓練を年1回以上実施してほしい。なお、特に地域住民の協力を得た避難訓練を行い、地域の方が事業所を訪問する契機にしてほしい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者ごとに食事や水分の摂取状況を毎日記録している。普通食が食べられない方には、状態に応じた食事を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出すため、玄関・浴室・フロアにはそれぞれ季節ごとの花が飾ってある。居間や食事をするところは天井が高く、広がりのある空間の中で、利用者が居心地よく過ごせるようになっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みの家具や使い慣れたテーブルや椅子・ラジカセ・テレビなどを置き、利用者が安心して過ごせるよう配慮している。		

 は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 せんだんの家

記入担当者名 清水 貞子

評価結果に対する事業所の意見
特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。